海蔵寺だより

第１７号

令和２年３月
発　行

けっかじねんじょう
『結果自然成』

～達磨大師著（だるまだいしちょ）「少室六門集（しょうしつろくもんしゅう）」より

やれることを精一杯やったら、あとは自然に果実が実るのを待っていればいい。土も耕さず、種も蒔かず、肥料や水もやらずに「芽」が出るわけはありません。やれるだけのことを一生懸命やればあとはお日さまや自然に任せましょう。

仏教は結果よりも経過を大事にします。精一杯やったら、あとの結果は忘れてもいいくらいです。もしも思うような結果が仮に出なかったとしても、できる限りのことをやり切れば、少なくとも自分の栄養に必ずなります。大切なことは悔いのないところまでやり切ること。あとはじたばたせずにどっしりと構えていればいい。そうすれば気持ちも良いものです。

裏面もご覧下さい

彼岸会について

彼岸とは、詳しくは「到彼岸」といい、梵語「波羅密多」の訳です。

「到彼岸」とは、「彼岸に至る」の意味で、煩悩生死の苦海を越えて、理想郷である「涅槃の岸」に達することです。つまり、迷いの娑婆世界である「此岸」から、悟りの世界である「彼岸」へ至るということです。

彼岸会は、仏菩薩と先祖への報恩感謝の期間とされ、仏壇のお供え、お寺参り、墓参りが行われます。彼岸中には牡丹餅を作り、仏壇やお寺に供え、家族も相伴して親類・縁者等へ配り、ご先祖様を通じて親睦を深めるという風習があります。

春彼岸に供えるのが「牡丹餅」、秋は「お萩」ということもいわれますが、餡をつけたのが「牡丹餅」、きな粉をつけたのが「お萩」というところもあります。在家の人は、平素は仕事や子育て、家事等に追われているため、春秋二季の七日間は、悪を止め、善事を実行する週間でもあります。

お参りはご家族みんなで

お寺からのお知らせ

■ 3月8日(日)に婦人部会行事が行われました。内容は以下の通りです。15名参加。

- 読経
- 椅子坐禅(椅子に座ったままの坐禅)
- 住職講話
- 令和元年度総会
- 講師講話　北日本ビーエス観光　取締役　大谷　晃人　氏「旅行よもやま話」

■ お参りの方へ。供物はご家族の方の手で上げて下さい。最近は葬儀屋さんに供物を配達してもらい、葬儀屋さんが上げていくケースが出てきました。当寺ではこれをお断りしております。自分たちで上げるのもご供養だと考えるからです。ご理解の上、よろしくお願い致します。

■ 春彼岸・お盆・年末と、花瓶と供花のご協力をお願いして参りましたが、見事、効果が出ております。花瓶が行方不明になることも無くなりました。引き続きよろしくお願い致します。ご協力、本当にありがとうございます。

編集後記

先日、ある新聞を見ていたら、ものまねのコロッケさんの記事が出ていた。「“どうしたら人に喜んでもらえるか”を常に考えて生活している」とのこと。一見、よく言われがちで、ありがちな言葉だ。けれどその時の自分にはビビッときた。今頃だけれど。でも、それって凄い！ある意味至言ではないか。幸せに暮らすための金言だと。自分が、ではなく、どうしたら人に喜んでもらえるか考え行動することで、ひいては自分もしあわせになれること、と私は遅ればせながら理解したのだ。早速忘れないようにメモし、ボードに貼り付けた。気持ちが何となくな時、そのメモは実に役に立っている。こうしちゃいられない、といい方向にシフトできるのだ。

本当にさもないことだけれど、こういうちょっとしたビビッときた言葉が身に染みることが多くなった。それは手帳をつけ始め、筆記生活をするようになってからだ。以前から日記は欠かしたことがはないタイプではあったが、何でもかんでもその手帳に書き込み見返すという新しい習慣が私にはでき、それは新たなアンテナをくれた。

言葉との出会いは意外と大きな変化をもたらす。相手がどう思うかを常に考えられたらうまくいくことがちょっとだけ増えた気がした。あとは続くかどうかだなぁ…。

合　掌